

「心機一転の年」

綱紀法務部長 中山 嘉美

元号が「令和」に変わってから、初めての新年を迎えました。

会員皆様においても「心機一転」という言葉が、脳裏を駆け巡っていることと思います。

平成生まれの若い会員も増えてきておりますが、昭和、平成そして令和の三時代を生き抜こうとしている会員が多数を占めています。

昨年11月現在の札幌支部個人会員は990名、法人会員16で、全道会員の約54パーセントを占めています。

また、全国都府県（北海道を除く。）の会員数と比べても13番目に位置する会員数です。

（1番は東京都、12番は群馬県）

そのような意味からは、札幌支部の組織力と市民に貢献する度合いは多大なものがあります。

「5パーセント理論」

どのような優秀な集団においても、その集団の5パーセントに当たる構成員は、いわゆる「不適正グループ」（言葉は適切ではありません。）になるといわれます。

これは、組織運営上の危機管理の一つとして捉えられています。

昨年1年間の苦情等の処理を振り返りますと、経験の浅い会員やベテラン会員に対する苦情は皆無でした。

反面、業務に精通しているであろうと思われる年数の会員が、基本的事項を依頼者に説明しなかったり、書類を渡さなかったための苦情が多かったです。

また、受任業務が多過ぎて処理に手間取ったり、結果報告を怠ったりしての苦情もありました。

政治の社会で批判された「身の丈」発言は、会員の實力と受任業務の多寡については、参考になる言葉かと思いました。

札幌支部会員に対して寄せられた苦情は、構成員の0.9パーセントでした。

業務上での、基本とかけ離れた「馴れ」は失敗のもとです。

やらなければならないことは、手抜きをしないことです。

今年も、皆でこぞって初心にかえり「心機一転」素晴らしい札幌支部を発展させようではありませんか。